

RNA共創コンソーシアムに関する調査レポート

作成日: 2025年10月19日 作成者: Manus AI

序論

本レポートは、花王株式会社と株式会社アイスタイルが主導して設立された「RNA共創コンソーシアム」に関する包括的な調査結果をまとめたものである。本コンソーシアムは、皮脂から採取したRNA情報を活用し、個人の肌や身体の状態を可視化することで、美容・健康分野におけるパーソナライズドサービスの新たな地平を切り拓くことを目指している。本稿では、提供された情報源および追加調査に基づき、コンソーシアムの設立背景、技術的基盤、活動内容、社会的影響、そして倫理的課題に至るまで、多角的な分析を行う。

1. RNA共創コンソーシアムの概要

1.1. 設立背景と目的

RNA共創コンソーシアムは、2024年3月11日に花王株式会社と株式会社アイスタイルによって設立された。その根底には、情報過多の現代社会において、生活者が無数の選択肢の中から自身に最適な商品やサービスを見つけることが困難になっているという課題認識がある。コンソーシアムは、花王が開発した画期的な「皮脂RNAモニタリング技術」を共通の「モノサシ」として活用し、**客観的な生体指標に基づいた商品選択を可能にすることで**、この課題を解決することを目指している [1]。

コンソーシアムは、企業の垣根を超えて「作る」「売る」「選ぶ」の新基準を制定し、ビューティ&ヘルス産業全体で、サステナブルな消費サイクル実現に挑む [2]。

この目的は、生活者一人ひとりの満足度を向上させるだけでなく、ミスマッチによる無駄な購入や廃棄を減らし、環境負荷の低いサステナブルな市場を創造するという、より大きな社会的意義を内包している。

1.2. 組織構成と参画企業

コンソーシアムは、異業種の企業が連携するオープンイノベーションのプラットフォームとして機能している。その組織は、運営を担う理事企業と、各分野の専門知識を持ち寄る幹事企業から構成される。

役割	企業名	業界	主な貢献
理事企業	花王株式会社	化学・化粧品	コア技術（皮脂RNA
	株式会社アイスタイル	IT・プラットフォーム	データ収集基盤（@
幹事企業	株式会社コーセー	化粧品	製品開発・技術応用
	株式会社マツキヨココカラ&カンパニー	小売・流通	販売チャネルと生活
	キリンホールディングス株式会社	飲料・ヘルスサイエンス	健康・食領域への応
	パーフェクト株式会社	AI・テクノロジー	AI肌解析技術とデジ
	株式会社ヘルスケアシステムズ	健康サービス	郵送検査サービスの

この多様な企業構成により、技術開発から製品化、販売、そして生活者へのサービス提供まで、一気通貫したエコシステムの構築が可能となっている。

2. 技術的背景：皮脂RNAが拓く可能性

コンソーシアムの中核をなすのは、花王が2019年に発見・開発した「皮脂RNAモニタリング技術」である [3]。これは、従来の侵襲的な検査とは一線を画す画期的な技術であり、その特性がコンソーシアムの活動の基盤となっている。

2.1. 皮脂RNAモニタリング技術

本技術は、あぶらとりフィルムで顔の皮脂を採取し、そこに含まれる微量のRNAを次世代シーケンサーで網羅的に解析するものである。その最大の特徴は、**非侵襲性**と**簡便性**にある。血液や組織を採取することなく、日常生活の中で手軽に生体情報を取得できるため、生活者の心理的・身体的負担が極めて小さい。

2.2. RNAとDNAの決定的違い

本技術の理解において重要なのは、RNAとDNAの根本的な違いである。

DNAが一生変わらない「遺伝的素因」を示す設計図であるのに対し、**RNA**は体調や食生活、ストレス、紫外線といった環境要因によって日々刻々と変化する「現在の身体状態」を反映する写し鏡である [2]。

この特性により、RNAは「今の自分」の状態を知るためのリアルタイムな指標となり得る。これは、生まれ持ったリスクを判定する従来の遺伝子検査とは異なり、現在のケアの最適化やライフスタイルの改善に直接的に繋がる情報を得られることを意味する。

2.3. 「肌遺伝子モード」 判定技術

さらにコンソーシアムは、この技術をより身近にする「肌遺伝子モード」判定技術を開発した。これは、皮脂RNAの解析データを基に構築したAIモデルを活用し、**スマートフォンのカメラで顔を撮影するだけで、皮脂RNA発現情報に基づく肌タイプを推定する**というものである [4]。これにより、物理的なサンプル送付なしに、誰もが瞬時に自身の肌状態の客観的指標を知ることが可能になった。この技術は既にアイスタイルの@cosmeアプリに「ケアどき診断」として実装されている [5]。

3. CEATEC 2025での評価と未来像

コンソーシアムの取り組みは、2025年10月に開催された最先端テクノロジーの展示会「CEATEC 2025」において高く評価され、その将来性を示した。

3.1. 「コ・クリエイション（共創）部門賞」の受賞

コンソーシアムは、CEATEC AWARD 2025において「コ・クリエイション（共創）部門賞」を受賞した [6]。受賞理由は、「**RNAをモノサシとして業界・業種を横断した商品・サービスの提供、選択が可能になる未来を提案**」した点にあり、その先進性と産業横断的な共創モデルが未来社会へ大きく貢献する可能性を秘めていると評価された。

3.2. 「RNAテックで変わる8つの暮らし」

CEATECのブースでは、「RNA-Tech Driven Society ～RNAテックで変わる暮らしの8の新基準～」をテーマに、RNA技術が普及した社会の未来像が提示された。その中には、「RNA周期ケアで"使い時"が科学的にわかる世界」や、スマートフォンでの撮影による「SKIN・HOLISTIC・HEALTH解析」体験などが含まれ、来場者はRNAがもたらす生活の変化を具体的に体感した [1]。

4. 社会的・倫理的考察

個人の生体情報を扱うRNAテックの社会実装には、その便益だけでなく、プライバシーや倫理に関する慎重な検討が不可欠である。

4.1. プライバシー保護への取り組み

コンソーシアムは、公式サイトで詳細なプライバシーポリシーを公開しており、個人情報保護法の遵守を明言している [7]。特に、第三者提供は法令に基づく場合や本人の明確な同意がある場合に限定し、安全管理措置として情報の取扱い明確化、不正アクセス対策、委託先の監督などを徹底する方針を示している。これは、生活者の信頼を獲得するための基盤となる重要な取り組みである。

4.2. 遺伝子情報に関する規制と倫理的課題

日本では、経済産業省などが「個人遺伝情報を用いた事業分野における個人情報保護ガイドライン」を定めているが、これは法的拘束力のない自主規制の側面が強い [8]。遺伝子検査ビジネスに対しては、科学的根拠の不確実性や適切なカウンセリングの欠如を懸念する専門家の声もある [9]。

しかし、RNA共創コンソーシアムが扱うRNA情報は、前述の通り、生涯不変の遺伝的素因を示すDNAとは異なり、**可変的な状態情報**である。これにより、遺伝子差別のリスクはDNAに比べて相対的に低いと考えられる。コンソーシアムは、疾患の診断ではなく、あくまで美容と健康のウェルビーイング向上を目的としており、この明確な線引きが倫理的課題を乗り越える上での鍵となる。

4.3. 潜在的な課題と社会的意義

RNA技術の社会実装には、科学的根拠の継続的な検証、消費者のリテラシー向上、データの二次利用における透明性の確保など、乗り越えるべき課題も存在する。しかし、これらの課題に適切に対処するならば、コンソーシアムの活動は大きな社会的意義を持つ。

ポジティブな側面:

- **サステナブルな消費:** 自分に合う商品を選ぶことによる無駄な購入と廃棄の削減。
- **パーソナライズドの民主化:** 高度なサービスをより多くの人々が享受可能に。
- **科学的根拠に基づく選択:** 主観や広告に頼らない、客観的指標による消費者のエンパワーメント。

結論

RNA共創コンソーシアムは、花王の「皮脂RNAモニタリング技術」を核に、異業種の企業が結集し、美容・健康分野に革命をもたらそうとする野心的な取り組みである。その技術は、非侵襲的かつ簡便に「現在の身体状態」を可視化するという点で、従来の遺伝子検査とは一線を画す。CEATECでの受賞は、その共創モデルと社会的インパクトへの期待の表れと言える。

今後は、プライバシー保護と倫理的配慮を徹底しつつ、技術の科学的妥当性を高め、消費者への透明性ある情報提供を続けることが成功の鍵となるだろう。本コンソーシアムの活動は、単に新しい市場を創出するだけでなく、生活者が自らの身体を深く理解し、より主体的で質の高い人生を送るための新たな「モノサシ」を提供する可能性を秘めている。その動向は、関連業界のみならず、未来の社会システムを考える上でも注目に値する。

参考文献

- [1] 花王株式会社. (2025年10月7日). RNAで「自分を知って」商品やサービスに出会う時代へ「RNA共創コンソーシアム」が「CEATEC 2025」に出展.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000575.000070897.html> [2] 花王株式会社. (2024年3月11日). 花王とアイスタイル、『RNA共創コンソーシアム』を設立.

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2024/20240311-002/> [3] 花王株式会社. (2019年6月4日). 花王、皮脂中に人のRNAが存在することを発見 独自の解析技術「RNA Monitoring (RNAモニタリング)」を開発. [4] 花王株式会社. (2025年5月21日). 皮脂RNA発現情報に基づく肌タイプを顔画像から推定するモデルを構築. [5] 株式会社アイスタイル. (2025年5月21日). 顔画像からRNAに基づく肌タイプを推定する「肌遺伝子モード判定」機能を@cosmeアプリに搭載. [6] CEATEC. (2025年). 【CEATEC AWARD 2025】コ・クリエイション（共創）部門賞 RNA共創コンソーシアム. <https://www.youtube.com/shorts/yAVR63cLDrc> [7] RNA共創コンソーシアム. プライバシーポリシー. https://www.rna-co-creation.jp/privacy_policy/ [8] 個人情報保護委員会. 経済産業分野のうち個人遺伝情報を用いた事業分野における個人情報保護ガイドライン. https://www.ppc.go.jp/personalinfo/legal/gentec_data_guideline/ [9] m3.com. (2024年3月14日). 「野放し状態」遺伝子検査ビジネスに規制求める. <https://www.m3.com/news/iryoishin/1198269>